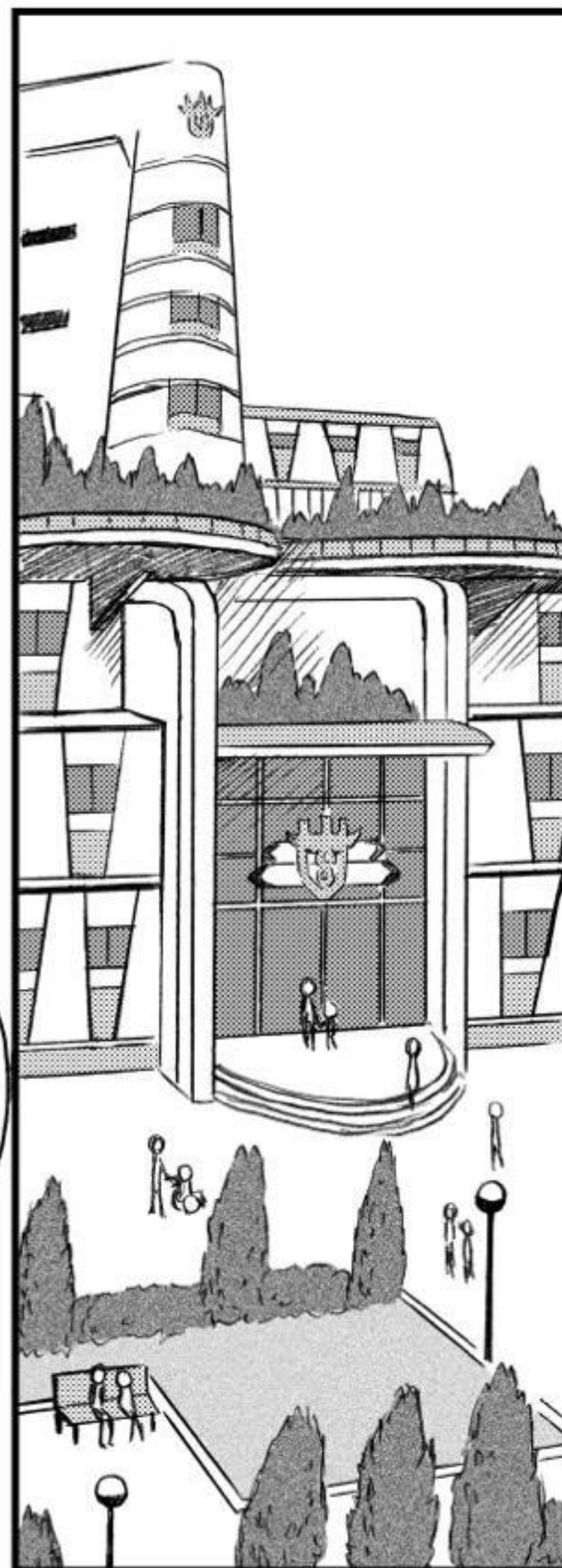




相思相愛の理想形



おまたせ
兄さん

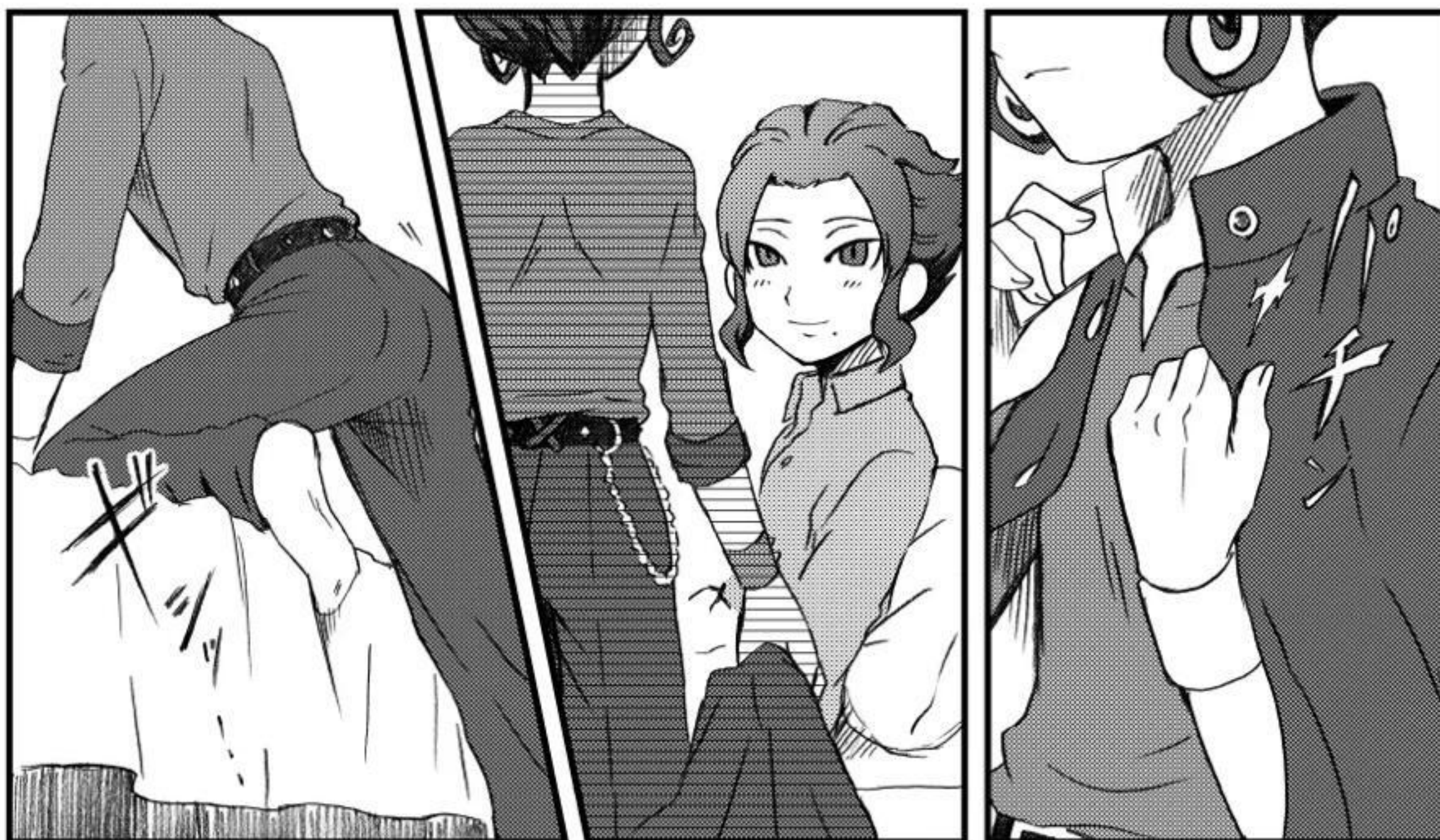
雑誌
買ってきたよ



ありがとう
いつも悪いな

いいよ
これくらい







兄さんの
足の間に
入っては

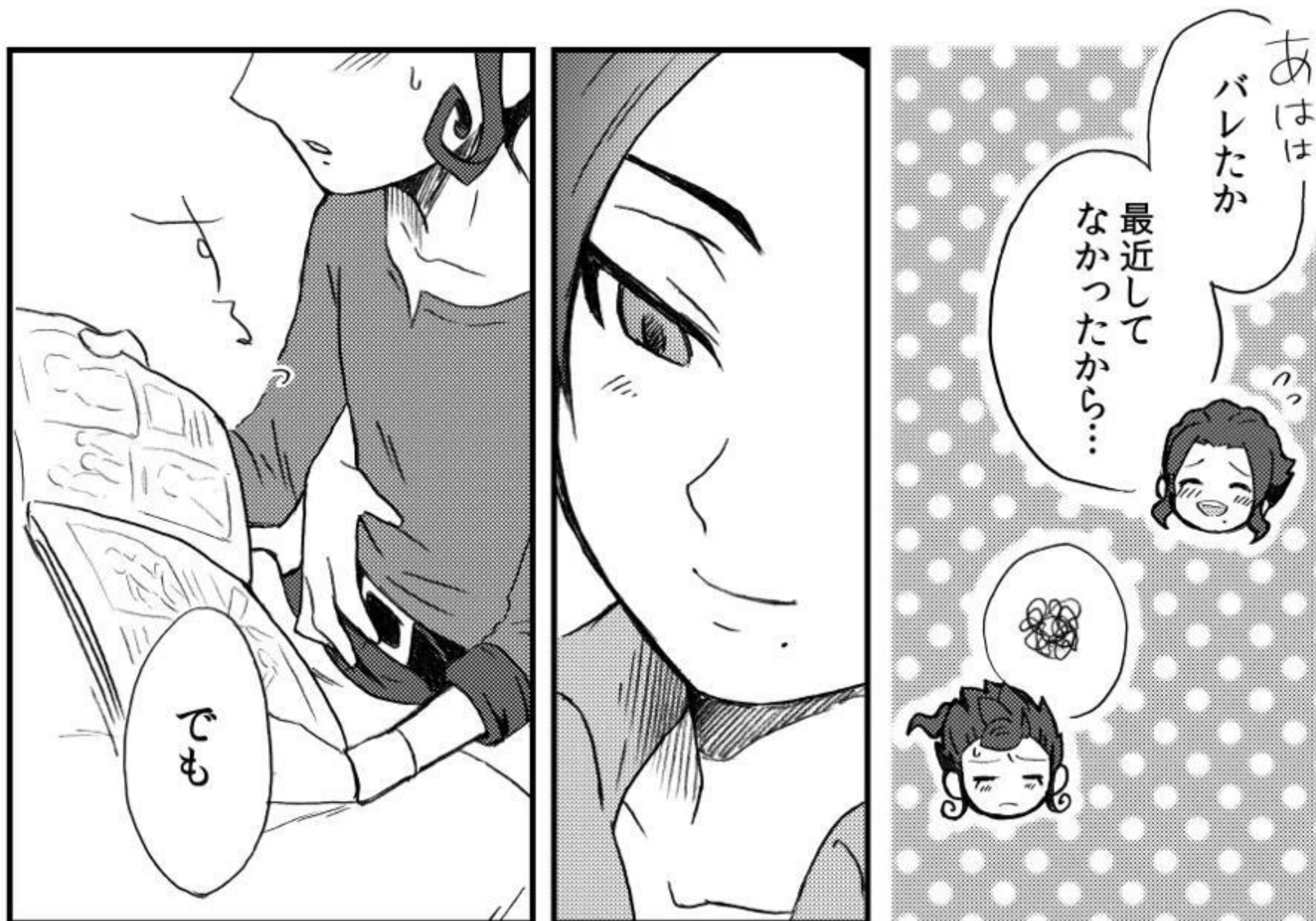
一緒に本や
テレビを
見ていた



それは今でも
変わらなくて...



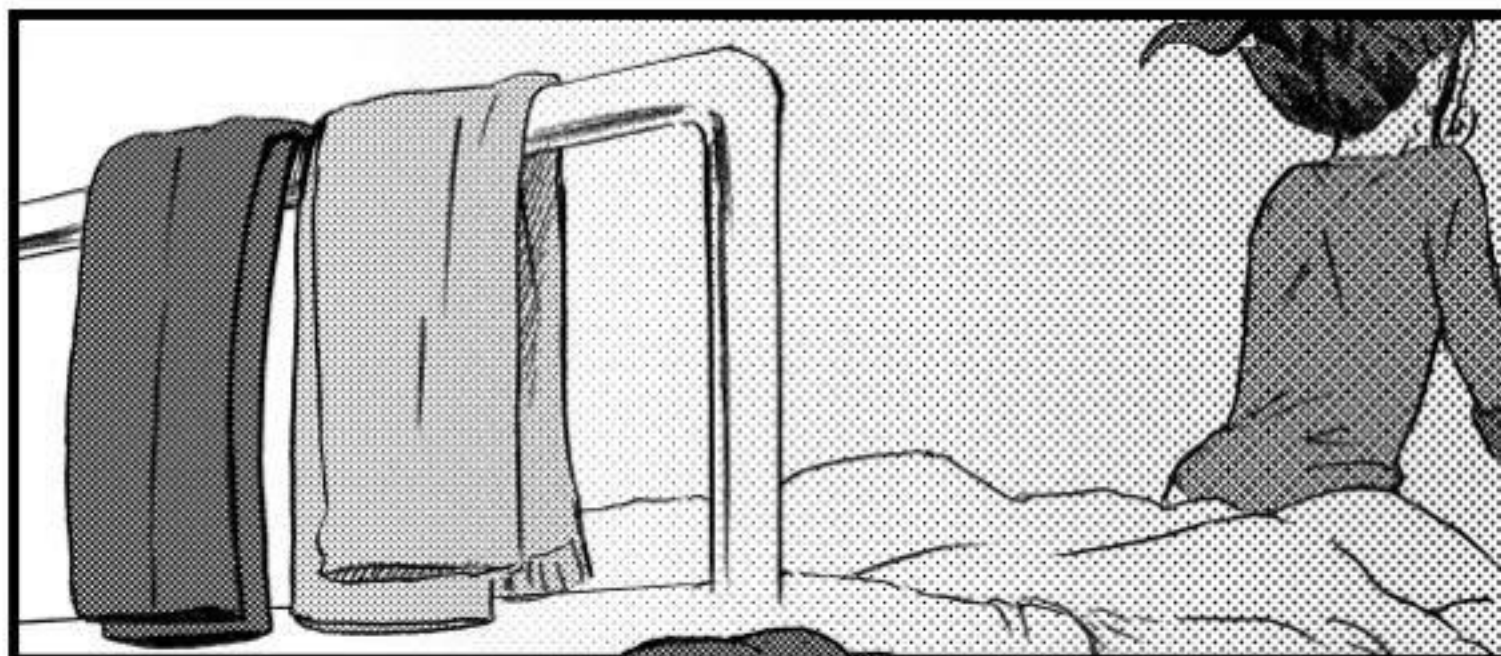






兄さんとの
関係…

…うん



…ほら
もっと近づ
かないと



こういう事を
始めたのは

兄さんに
自分でのやり方を
教えてもらった
時からだ

1人で出来る
ようになった
今でも続いて
いるこの行為は

京介も
触って

兄弟では
可笑しな事だと
分っていた

…うん





けれど
兄さんに
触られるのは

体は勿論

心も気持ち
良くて



止める事など
できなかった



むしろ

おっと！

んあつ



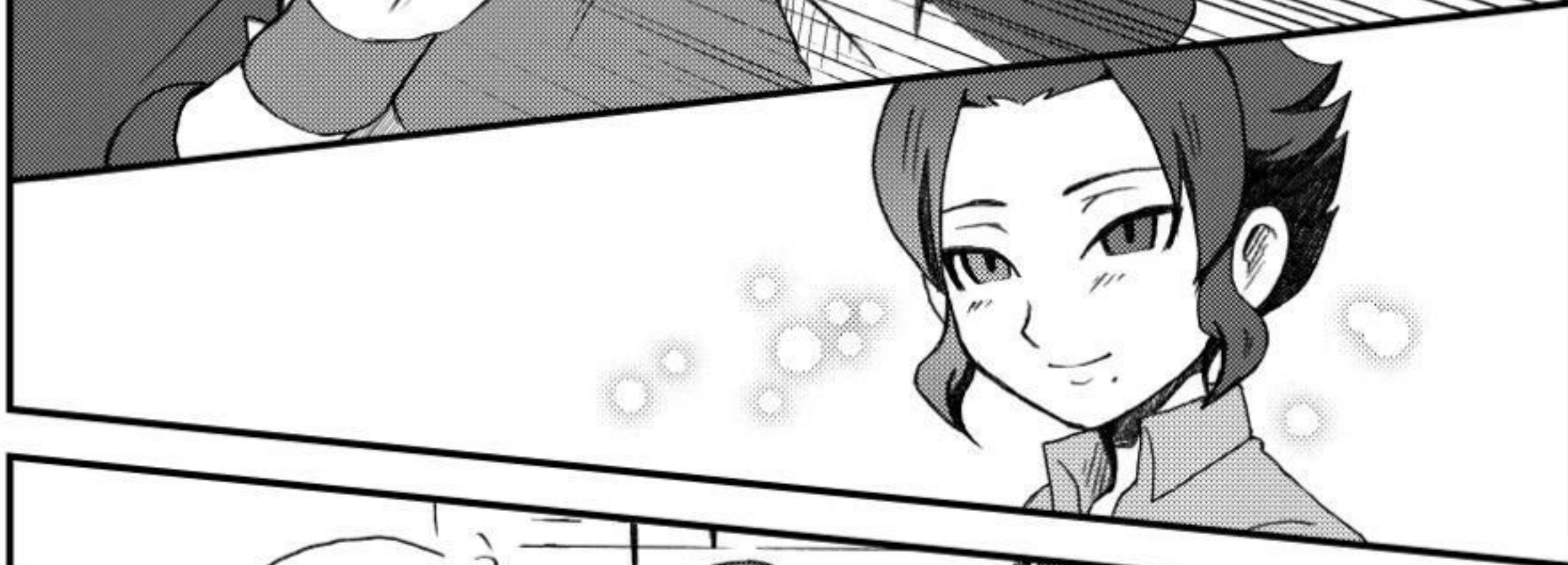








っ
!?



俺と京介が
したい事を
考えてみた
んだけど…

違った
かな？

そ
れは
兄さんがしたい
事なのか…？



一瞬

息が
止まるほど
驚いた

胸の内を

兄さんにもっと
触ってほしい
と言う願望を

見破られた
気がして…

「俺と
エッチする？」

かあ

言葉にして
伝えた事は
ないが

俺の気持ちは
きつと兄さんに
バレている

だから
あんな事を…











『兄弟で男同士』
と言う壁は大きく

今の関係が壊れる
のを恐れて
気持ちを聞く事も
伝える事も
出来なかった



結局

兄さんの
本心を確かめ
られないまま

俺は宇宙へ
出る事になった



決勝戦
見てたぞ！

すごい
試合だったな

ああ

俺も早く
京介とサッカー
したくなったよ

俺もだよ



もうすぐ
帰ってこられ
るんだろ？

ああ



宇宙での
戦いの中では

兄さんとの事を
考える余裕もなく

あつという間に
試合は進んでいき



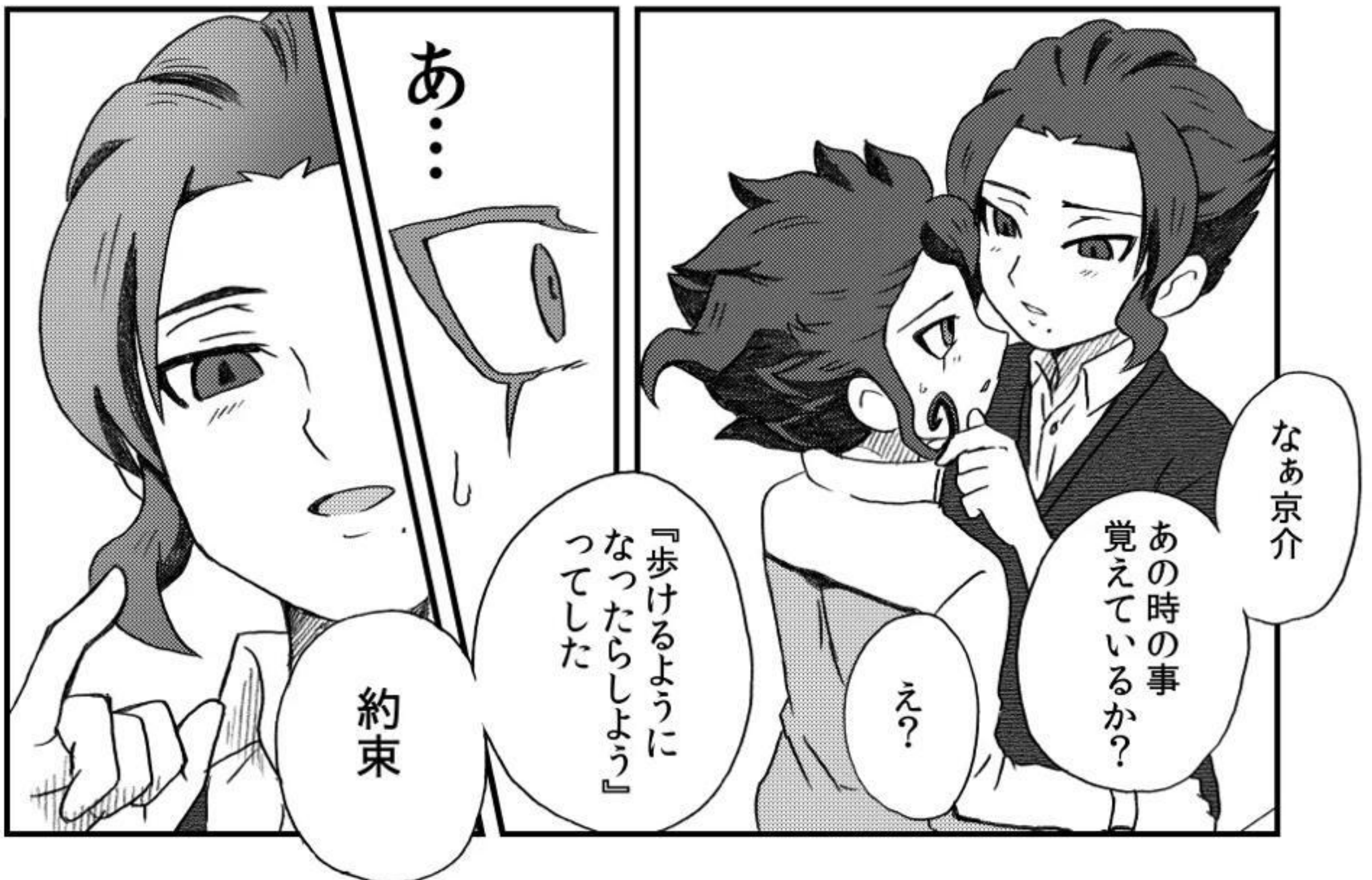
地球への
帰還の日が
迫っていた







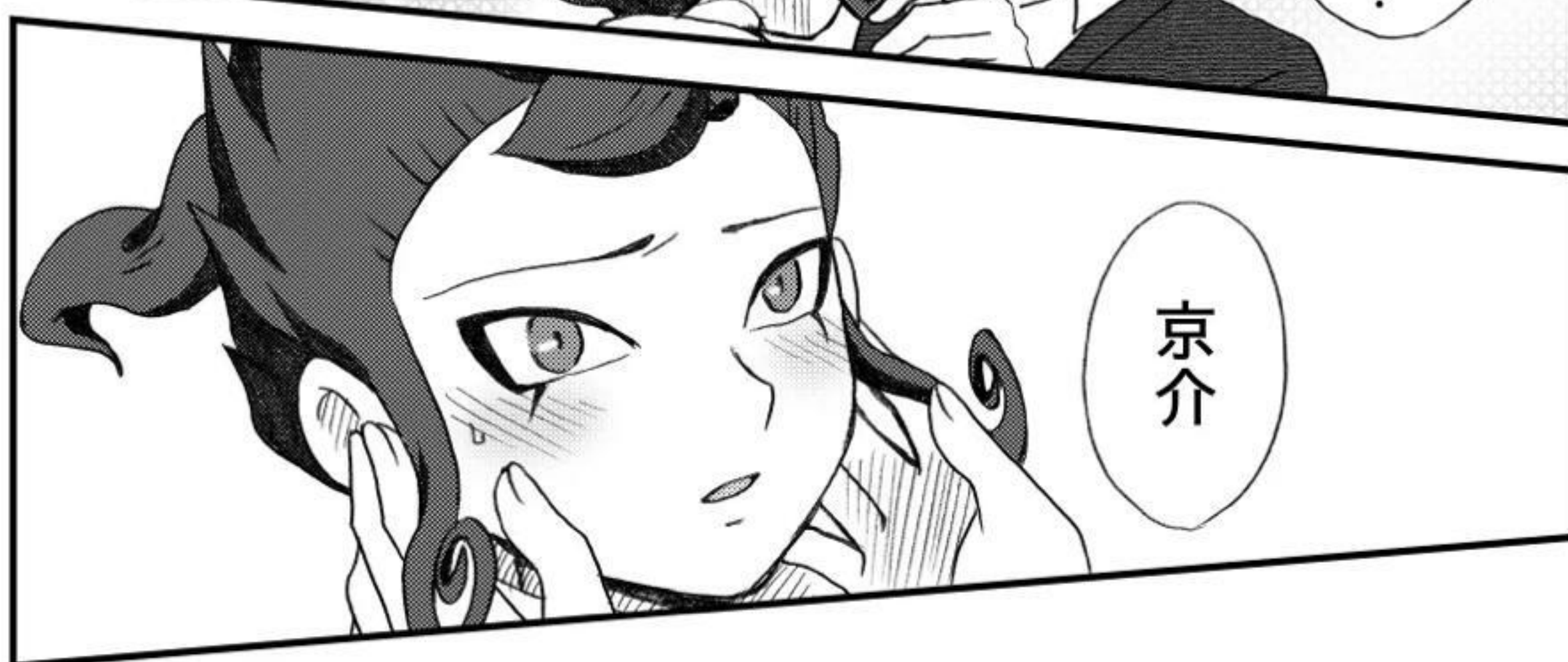
















想像以上に
胸を熱くして

『兄弟で男同士』
なのに可笑しい

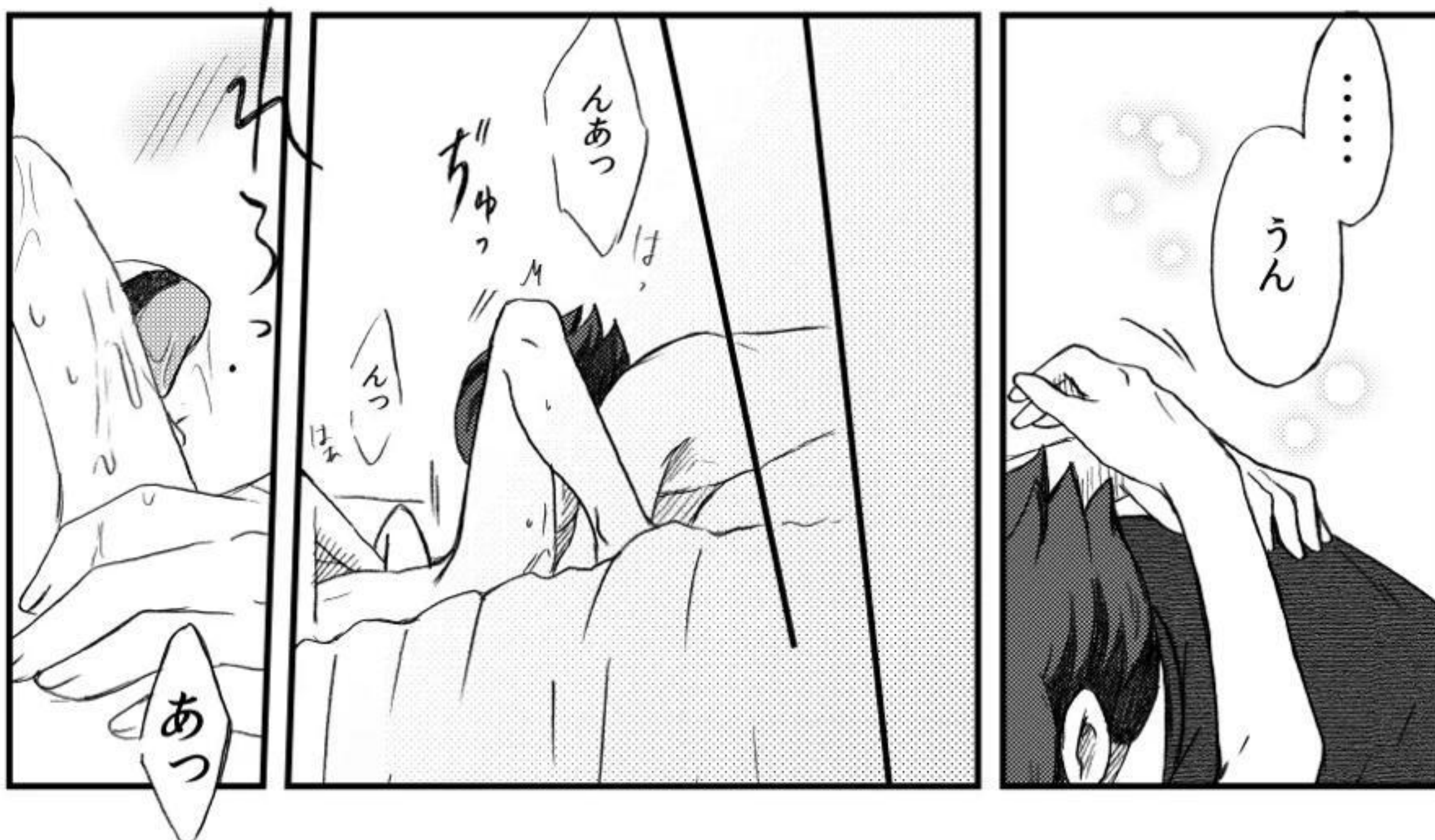
けれど
この感情は

『恋』と
呼ぶ以外に
ないものだった



















ああっ!!

んっ!

おっ

俺も

もたない...

グッ

グッ

なあ京介

…何?
兄さん

